

3 - 2 房総南方沖および南東沖の地震活動について

Seismic Activity at Southern Part and Southeast off the Boso Peninsula.

気象庁地震課・地震活動検測センター

SAMC, Seismological Division Japan Meteorological Agency

第1図は気象庁で震源決定した関東周辺の1926年～1971年の浅い地震（ $h=0\sim 39\text{km}$ ）の発生数の分布であるが、房総南部の沖合と南東沖の地震活動は比較的静かな状態が続いている。第2図は房総南方沖の地震発生数を積算して年変化を調べたものであるが、これからみると現在も殆んど定常的な活動が続いている。なお、1961年以前と以後に大きく変化しているのは、気象庁の震源決定法が従来の作図方式から電計方式に変わったために震源決定された地震数が増加したためであって、地震活動の異常のためではない。しかし、房総南東沖にはすでに報告したように（地震予知連絡会報第13巻，23 - 25），1973年から1974年にかけて地震が時々群発するような状態が続いた。そして、前同様1926年以後の地震発生数の時間的変化を調べてみると第3図となる。これによると、1973年から1974年にかけての地震活動の異常は震源決定法などの原因によるものではなく、あきらかに数十年ぶりに発生した地震活動の異常的变化であることがわかる。そこで同地域を通過するP波のO-Cを調べたところ第4図となった。地震の発生前には発生する地震の規模に関係のある、ある期間に異常的な地震活動のあることが関谷（1976）の調査から明らかになっているが、こういう意味からも房総南東沖の地震活動は今後注目していく必要がある。

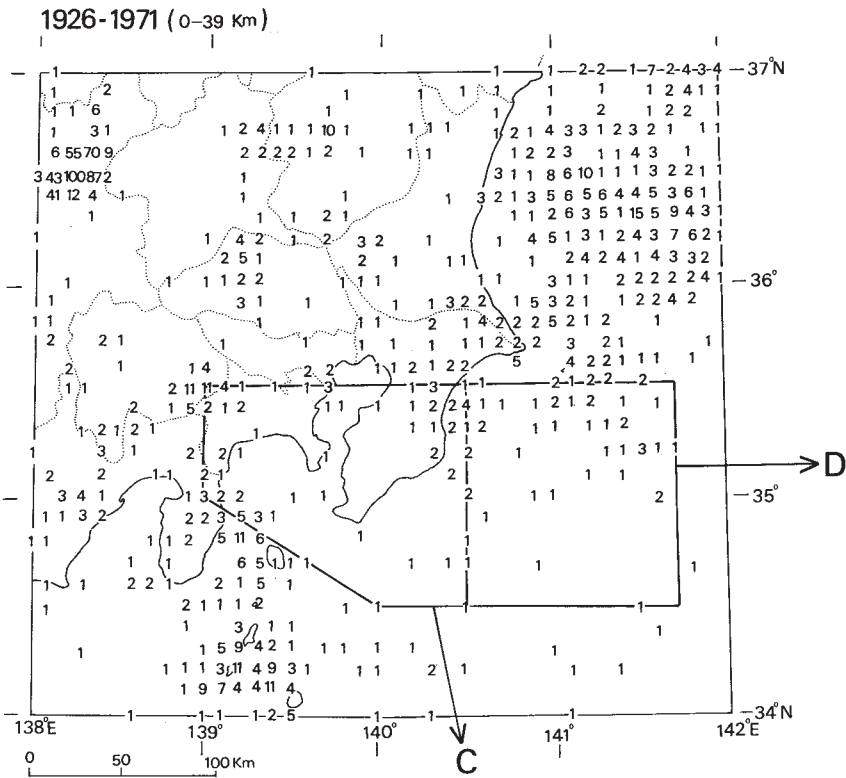
参 考 文 献

気象庁地震課・地震活動検測センター：房総南東沖の地震活動

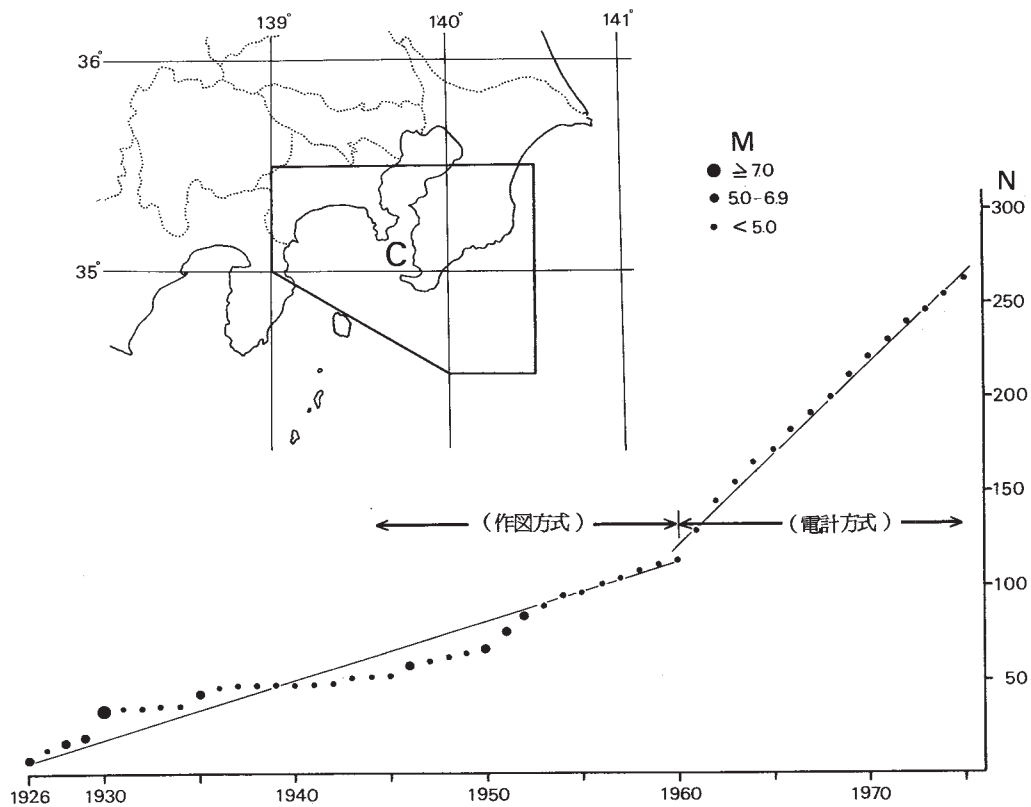
（1975） 地震予知連絡会報13，23 - 25

関 谷 溥（1976）：地震発生前の地震活動と地震予知

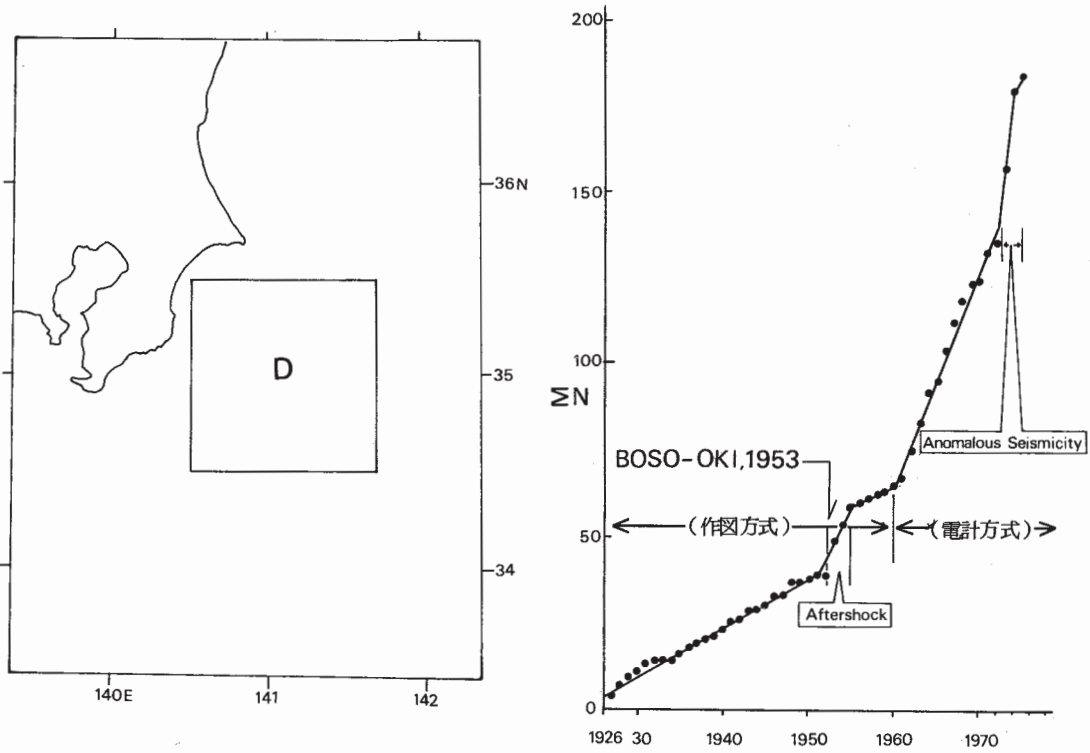
昭和51年度地震学会春季大会講演予稿集46



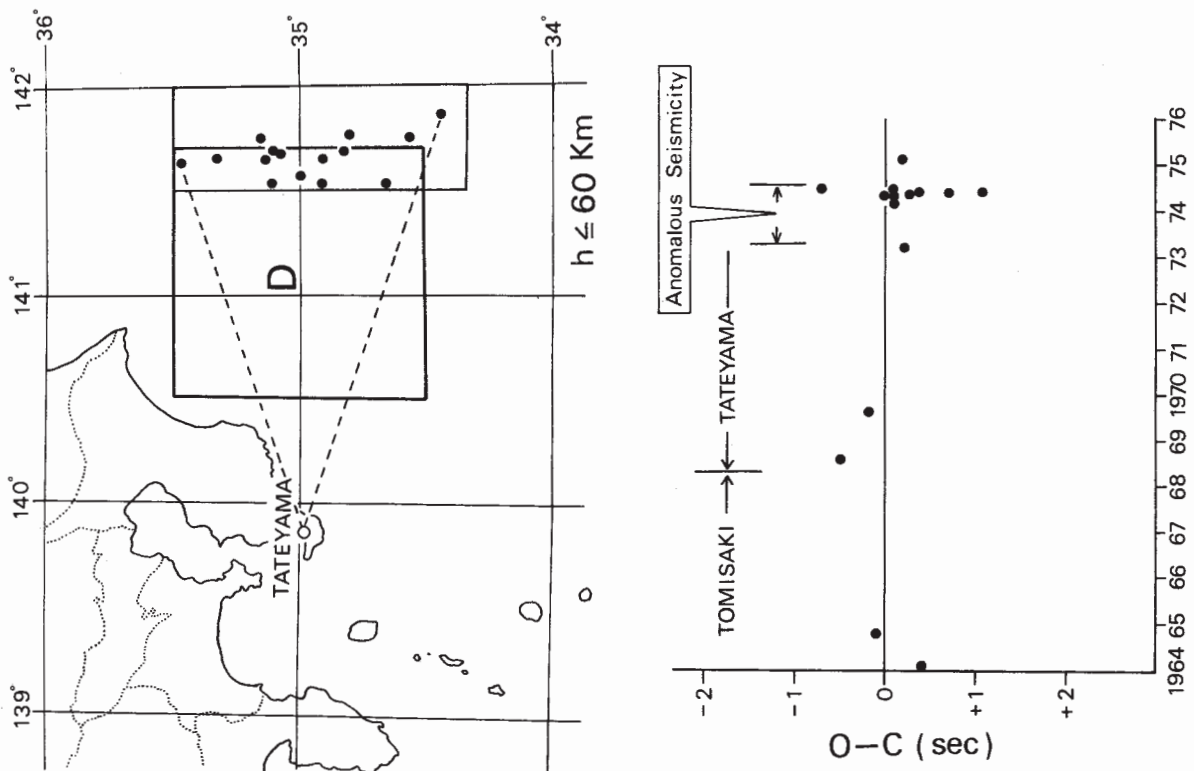
第1図 関東地方に発生した浅発地震 (h=0 ~ 39km) の分布図
 Fig. 1 Distribution of shallow earthquakes which occurred in Kanto district (1926-1971, h=0-39km)



第2図 房総南方沖 (C 域) に発生した地震数を年別に積算した変化
 Fig. 2 Cumulative sum of yearly number of earthquake occurred at southern part off the Boso peninsula (C area)



第3図 房総南東沖（D域）に発生した地震数を年別に積算した変化
 Fig. 3 Cumulative sum of yearly number of earthquake which occurred at southeast off the Boso peninsula (D area)



第4図 館山で観測したD領域を通過するP波のO-C
 Fig. 4 O-C at Tateyama for P waves passing the D area of southeast off Boso peninsula.